



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THE Y^W MEN^{'S} CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 “On the Move!!” 「さあ動こう!!」
- アジア会長主題 “With Pride and Pleasure” 「誇りと喜びを持って」
- 東日本区理事主題 「みんなで力を合わせて、1・2・3」
- あずさ部部長主題 「入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために！」
- 東京西クラブ会長主題 「いつも自然体で！ 楽しい例会参加を

2020年5月号

NO 523

だから明日のことで思い煩うな。明日は明日自身らが思い煩うであろう。

その日の苦労は、その日だけで十分である。

マタイによる福音書 6章34節

離れていても繋がっている

神崎清一

2017年、東京西クラブに入会をさせていただいたおりに、例会の卓話をさせていただきましたことが、つい先日のことのように思えます。



私なりの YMCA 観、ワイズ観、会員運動としての Y と Y's、そのようなことを、いつもの関西弁かつ早口でお話をさせていただきました。

これは約 40 年の間、周りの会員の方々、ボランティア、生徒や子どもたち、そして国内外の Y の人びととその事業に触れ合う中で、私自身が育まれてきた財産を少しでもシェアすることができればと思いの丈を。すなわち、「人は他者と交わりの中で、喜びや哀しみを知り、変えられ成長する」ことができ、これこそがワイズメンズクラブならびに YMCA の存在

価値であり、可能性そのもの。

例会やクラブの諸事業を通して、人生の先輩とも言えますメンバーのお一人おひとり、いつも謙虚に楽しく学ばれ、そしてご奉仕に喜びを楽しく学ばれ、そしてご奉仕に喜びをもって活動されておられますことに、いつも励まされていました。

Y でもワイズにおいても、その地域や時宜に応じて変化することであることを同盟の間、あらためて実感したことでもあります。そして、必要と可能性について考え、多くの示唆があたえられました。

さて、今、日本はもとより世界が共通の課題に向かわざるを得ない状況にあります。対応する策は国や地域の状況、文化や経済の

によって取り組みは大きく異なっていますが、これまでの生き方に大きく変化が求められることは明白です。誰も正しい解答を事前に知っている課題ではありませんが、より良い絵図を描きたいものです。

YMCA では「みつかる。つながる。よくなっていく。」をスローガンにポジティブネットのある豊かな社会を目指してきました。そして、この時に「#はなれていてもつながっているキャンペーン」に取り組んでいます。

3年間ありがとうございました。皆さんのあたたかいご配慮と交わりに感謝いたしますと共に、すべての人がはなれていてもつながっていることができますように、これからもよろしく願いいたします。神様にすべてのこと、感謝して。

(前・日本 YMCA 同盟総主事)

クラブ役員

- 会長 篠原文恵
- 副会長 大野貞次
- 書記 神谷幸男
- 会計 高嶋美知子
- 担当主事 横山 弥利

4月の記録		ニコニコ		円	
在籍者数	12人	メネット	一人	クラブファンド(当月)	円
(内功労会員)	1人				
出席者数	一人	コメント	一人	クラブファンド(残高)	163,498円
メーキャップ	一人	ビジター	一人	ホテ校ファンド(当月)	1,050円
出席率	—	ゲスト	一人	ホテ校ファンド(残高)	63,466円
前月修正	—	出席者合計	一人	WHO 参加者	一人



アヤメ：花言葉「希望・よい便り」

撮影：神谷 雅子

鳴りやまない拍手を

吉田明弘

3月から5月までのクラブ例会と事務会が中止になりました。私は、入会53年ですが、1か月間、ワイズの会に出席しなかったことは、初体験でした。すっかり生活のリズムが狂ってしまいました。改めて、例会に出席することによって、エネルギーを得ていること、自分の生活の中での例会の存在感を痛感しました。

一方、SkypeやZOOMを用いた区の役員会、委員会のTV会議やクラブの例会や役員会の報告や案内が次々には入ってきます。この動きは、今後一層加速されるでしょう。クラブにおける例会とテレワークの使い分け、さらには奉仕と親睦のありようなど、クラブそのものの在りようが問われてきそうです。

東京西クラブにあっては、篠原文恵の次年度続投が決まり、クラブに安心感が広がりました。こういう時こそ、意識的なメリハリが必要です。ところが、例会すらも行えないまま、1年の締めくくりと、新年度の立ち上げとなりそうです。

東日本区大会も中止となりました。主宰者の山田敏明理事、2年間近く準備をされてきたホストの十勝クラブの皆さんの胸中は察して余りあります。毎区の大会の最後に、ホストクラブが全員壇上に上がり、万雷の拍手

を受けます。今年は、これが出来ません。今、考えてみると、あれは、ホストクラブにだけ向けられたのではなく、区全クラブとメンバー、メネットの1年間の労苦に対する賞賛と、新年度への期待の拍手だったように思います。大会に参加した人も、参加できなかった人も、それを感じて、1年の締め切りくくりと、新しい年度への決意をしていたのではないのでしょうか。

6月初旬、心の中で十勝クラブへ鳴りやまない拍手を送り、新年度への備えに入りたいと思います。

(琵琶湖区大会(主宰・戸所岩雄理事、ホスト：滋賀県6クラブ)を中止した西日本区にも同じ思いです)。

4月25日はマラリアデー

毎年4月25日は、世界マラリアデーです。

現在、世界でマラリアによる死亡は減少していますが、いまだに、有効なワクチンや、媒介動物(蚊)の駆除方法が開発されていないのが実情です。その中において、ワイズメンズクラブが行っている、就眠中の子どもを蚊の害から守る蚊帳を贈る手段は、確実な予防策として、国連の社会経済委員会で評価を受けて、ワイズメン新入会者を引き付けているそうです。

ワイズメンズクラブ国際協会は、今年度から、世界YMCA同盟とともに、「世界エイズ、結核、マラリア対策基金(グローバルファンド)と組んで、同基金が行う「感染症と闘い強化」(Step Up The Fight)に取り組みます。この基金は、国連に属さず官民のパートナーで構成され国連機関の活動を補完し連携、協力します。東日本区国際・交流委員会は、日本において、Malaria No More Japanと適宜情報交換を行っています。来年度は、東日本区は7月をRBMの強調月間とします。

東京西クラブの皆さま

木川 拓



この度、4月1日付にてYMサービス株式会社へ出向いたしました。

昨年より準備を進めていた人材紹介事業を専任として受け持つ事となり、当面は社会体育・保育専門学校卒業生を中心にフィットネス、保育業界に特化した転職サポートを行います。今は気持ち新たに夢を抱いています。

私が担当主事を仰せつかったのは2018年6月からでした。右も左も分からない中、皆さまには本当に親切に温かくお受け入れ頂いたことを今でも鮮明に覚えています。離れることは寂しいですが、皆さまに出会えた喜びを胸に、新たな道を歩んで参ります。そして更なるワイズメンズクラブの発展を心より願っております。短い期間でしたが、本当にありがとうございました。

みなさま よろしく

横山 弥利

1973年東京下町生まれです。

約10年間ホテル業界に従事いたしました。東京YMCAでは国際ホテル専門学校に9年、社会体育保育専門学校に4年、そして国際ホテル専門学校に復帰し2年目となり各学校で広報・入学相談室室長を勤め、同時に2年前よりブランディング推進室も兼務しております。

初めての事で至らぬ点も多いかと存じますが、東京西クラブの皆様とご一緒する時間を大切に、自らの役割に従事して参ります。また、本校の留学生対象に奨学金設立などこれまでも多大なるご協力、ご理解を賜り感謝いたします。今後ともよろしくお願い申し上げます。



☆☆☆インタビュー ☆81☆
長岡 正彦さんに聴く
 もりおかクラブ



—長岡さんは、クラブのチャーターメンバーで、ブリテンを創刊号から編集されていますね。

「そうです。2006年からです。他の会の会報編集は経験がありましたが、ブリテンは、何が何だか、まったく分からず、必死でやってきました」

—送っていただいた第1号の封筒を開けて、一目見て「やられた!」と思いました。

「え!なんでしょう?」

—当時は、紙のブリテンが主体で、三つ折りで郵送されてきました。封を開けて、まず目に入るレターヘッド部分。広げてもらえるかどうかの決め手です。ところが、あそこは、聖句やエライさんの主題がいくつも並んで、デザインしにくいんですよ。

「クラブバナーのデザインのデータを利用して画像を作りました。バナーはメンバーでデザイナーの千葉依子さんの作です。南部片富士といわれる岩手山と郷土で尊敬されている宮沢賢治の『銀河鉄道』を原色ベタで描いた絵本風の夢あるデザインです。メンバーに好評でした」

—長岡さんのワイズとの接点は。

「私は、長男が自閉症アスペルガーなので、岩手 LD 児者を守る親の会の会員でした。1990 頃、YMCA は活動に通う子どもの中に扱いにくい子がいることで対応を悩んでしました。そして私たちの親の会を知り、岩手大学の学生で親の会のボランティアと YMCA リーダーとの間で発達障がい勉強会を何回か開いてい

ました。YMCA の濱塚有史主事から、『今度、YMCA をサポートするワイズメンズクラブを立ち上げますから、長岡さんも一度準備例会に参加してみてください』と言われて出席、そのまま入会になりました。濱塚さんの誘いには、拒む理由はありませんでした」

—クラブの設立には、どんな経緯がありましたか。

「盛岡 YMCA が 1983 年に設立された時に、クラブ結成動きは具体的にありましたが、実現しなかったと聞いています。YMCA 活動が軌道に乗った 2003 年、仙台青葉城クラブにおられた井上修三さんが移住して来て、地元有志と協力して設立に向かいました。井上さんは熱心に準備をしていました。濱塚さんは、ターゲットの人材を集めまくってました。私といえば、ワイズを全く理解してはならず、不良の会員で、冷めた目で見ていました」

—長岡さんのご出身は。

「生まれも育ちも盛岡です。酪農、稲作、畑で野菜や飼料になるデントコーンなどの栽培する農家の三人兄弟、末っ子の長男です。わんぱく小僧で、私も ADHD の気配があったように思います。山と川での遊びが私の原点です」

—学校時代の部活は。

「中学では競泳。結構速かったと自負しています。高校時代は、ラグビーでした。工業高校で全国制覇 2 回の古豪です。私たちの時は、2 回目の全国制覇から 2 年経っていたので、物凄い練習を課せられました。FW の最前列でした。

—お仕事は?

コンピューターのカスタマーエンジニアといって、販売した機械を客先で修理、メンテナンスをする仕事でした。よく飽きずに 40 年間やったと思います。現在は同級生が社長をしている被服販売の会社で、トラックで移動販売をしています。お店に買い物に来られない、老人ホームの入居者が主

な対象です。お年寄りが楽しそうに商品を選ぶのを見ると、やりがいを感じます」

—創部 5 年目に花巻で東日本区大会をホストされました。被災地視察ツアーもあり、西日本区からの参加者も多く、大変でしたね。

「メンバーは 15 人。ホストと言われてもほとんどが、ピンときませんでした。仙台の 3 クラブの応援が無かったらムリでした。本番はただレールの上を走るだけですが、その前がなんと大変なことか。委員長の大関靖一さんは大会後体調を崩されました」

—長岡さんは晩餐会の司会もされました。何か感じたことは。

「『ワイズの中には、お行儀が悪い人がすこしだけいるんだな』と。多くのメンバーは尊敬できる方々でした。話好きで、長い方が多いのですね」

—チャリティーランを始めるなど、もりおか YMCA の活動にクラブが協力していますね

「浜塚総主事の人柄に惚れた後は、言われるままに YMCA の活動に協力しています。付き合いが重なれば、重なるほど抜けられなくなり、居心地がとってもいいのです」

—長岡さんは、蕎麦打ちも。

「師匠は大関さん。体験農場で栽培し、その粉を使って毎年、YMCA で蕎麦打ち体験試食会を開いています。これが楽しいのなんの。本当に楽しみです」

—ワイズの会員増強での問題は。

「全く知識のない方にどのように伝えれば、魅力を感じてもらえるか」ですね。具体的な活動の話をして、「それがなに?」と言われる場合が多過ぎるのです。

—最後に「今日は、ワイズメンズクラブの集まりがあります。来てみませんか」と正調・盛岡弁でお願いします。「『あのなはん、ばんげにワイズメンズクラブの寄合っこあるがらぺっこ来て見でけで、おもせがらさ』ですかね」

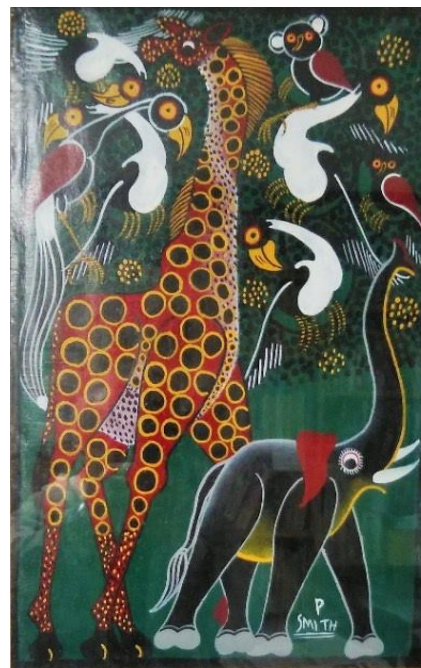
—ありがとうございました。(吉田)

私の大切な物⑤ 村野絢子

食堂の飾り

台所との仕切りの壁には多くの物が掛けられ、食卓を見下ろしている。① 息子が小6の時作った、木彫のお面。② 義弟がメキシコから戻った時のお土産「アマテ」樹皮に書かれた鮮やかな鳥。③ 長女がオーストリアの自室の窓から撮った「ルツェンムースの夕景」。④ 教会の友人小野滋夫妻からいただいた金属の黄道12星座。⑤ 〈象とキリンと鳥〉ケニアの画家スミス作。彼は日本の上野動物園で初めて生きた象・キリンを見たという。赤坂の画廊で出会った。⑥ 「クリスマスの部屋」志賀明美さんのキルトの作品を富士五湖クラブの原俊彦さんがタイルに焼き付けたもの。⑦ 「二人でお食事」友人の実川暢宏さん作。⑧ 飛んでいる魔女と天使、「スウェーデンの魔女」「ドイツ・グロッゲン山の魔女」どちらも箒にまたがっている。天使は妙高の山小屋のおじさん作「バンジョーを弾く天使」木の実と小枝でできている。⑨ モーリシャスで食用にされ絶滅した飛べない鳥

「ドウドウ」これは派手に塗られた飾り⑩「最後の晩さん」のガラス絵。いつから、ここにあるのか不明で思い出せない。これらはそれぞれ物語のある大切な物である。食卓は他に伝言板と食器棚と本棚に囲まれている。食卓の半分は朝日・東京新聞のそれぞれ朝刊と夕刊の山。夫と長女が切り抜くので無くならない。いつの日かテーブルセッティングして優雅に食事をしたい。写真は、スミス作の『象とキリンと鳥』



YMCA Today

■ 国際ホテル専門学校では新しく130人が入学！留学生は17人とここ10年で最多の入学人数です。入学式はコロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら中止といたしました。また、授業期間も6月8日からON LINE授業で1学期を、夏休みを挟み、8月31日から2学期を行う予定とされています。これまでとは少し違う授業形式も取り組む予定です。

■ 新2年生は2月から就職戦線がスタート！コロナウイルスの影響で4月に入り多くのホテルが採用活動を中断していますが、既に約1/3の学生が内定しています。大変な状況下ではありますが、それぞれに合った就職先にたどり着けるよう、また、社会人としていい形でスタートが切れるように、1・2年生ともに、これからもスタッフ一同しっかりサポートしていきます。

■ 【YMCA 共同の祈り】4月10日に行われた第1回全国YMCA

オンライン礼拝に200人近い方がアクセス！人数制限や音響など不十分な環境でしたが多くの反響を頂きました。今後は環境も500人まで拡大、セキュリティも強化し、国内外のYMCAの現場の現場も動画で織り込む予定となっています。

隔週金曜日 18:00～18:30

第3回 5月8日(金)

「ユースの声を聴く」

第4回 5月22日(金)

「世界のYMCA、そして女性」対

象：YMCA スタッフ・講師・会

員・ユースリーダー・学生

YMCA・学生・ワイズメン、

YWCA その他関係団体・協力者

※ビデオ会議システムZoom使用

(担当主事・横山弥利)

やる気情報満載

毎月15日に発信

Change! 2022

EMCニュース

ワイズドットコムで配信されます

編集後記

ワイズメンのカレンダーの中心は、例会と事務会の日程です。目立ちませんが、考えてみるとブリテンも、私たちの行動予定に影響を与えます。

原稿依頼がくると、締め切りに合わせて、段取りを考えなくてはなりません。ブリテンが届くと、その月の例会の光景をイメージして、自分のやることのないか、卓話によって、来てもらいたい知人がいないか、心巡らせませす。

今月は、図らずも、忙しい人に原稿をお願いすることになりました。

引越越し荷物に囲まれた神崎さん、異動の木川さん、横山さん、インタビューを急遽お願いした、もりおかクラブの長岡@正彦さん、近所で写真撮影をくださった神谷雅子さん、連載の村野絢子さん、新しい版下づくり方式に挑戦された鳥越さん、みなさんびっくりするほど、早く進めてくださいました。(AY)